

特別公開「雛と雛道具」展示作品リスト

NO.	名称	数量	年代	所蔵
弥千代の雛と婚礼調度				
1	やちよ ひな 弥千代の雛	1対	江戸時代後期	本館蔵(井伊家伝来資料)
2	やちよ ひなどうぐ 弥千代の雛道具	1揃 (85件)	江戸時代後期	本館蔵(井伊家伝来資料)
3	やちよ かご 弥千代の駕籠	1棹	江戸時代後期	本館蔵(井伊家伝来資料)
旧家の雛				
4	ひなだんかざ 雛段飾り	1揃	昭和時代前期	本館蔵(加納基弘氏寄贈)
5	こきんびな 古今雛	1対	江戸時代末期	本館蔵(高崎正之氏寄贈)
6	こきんびな 古今雛	1対	江戸時代末期	本館蔵(森嶋美代子氏寄贈)
7	こきんびな 古今雛	1対	江戸～明治時代	個人蔵
8	ひなごてんかざ 雛御殿飾り	1揃	昭和時代前期	本館蔵(青柳和子氏寄贈)
9	ひなごてんかざ 雛御殿飾り	1揃	明治33年(1900年)	本館蔵(山本高嗣氏寄贈)
10	ひなごてんかざ 雛御殿飾り	1揃	昭和時代前期	本館蔵(尾賀信子氏寄贈)
11	みつおりにんぎょう 三折人形	3軀	大正～昭和時代前期	本館蔵(若山夏江氏寄贈)
12	まめにんぎょう 豆人形	1揃	大正～昭和時代	本館蔵(山田米子氏寄贈)

写真解説

1 弥千代の雛 一対 (作品リストNO.1)

男雛 高 30.6cm 女雛 高 24.7cm

江戸時代

本館蔵 (井伊家伝来資料)

雛段などに立てかけて飾る立雛という種類の雛です。衣装は紙製で、室町時代頃の形式の装束となっており、男雛は小袖と袴を着け、女雛は小袖に細帯を締めています。まるで団子に目鼻をつけたかのような顔は、次郎左衛門雛という雛の形式に則ったもの。あどけない顔立ちが愛らしい一対です。



2 弥千代の雛道具 一揃 (写真はその一部) (作品リストNO.2)

江戸時代

本館蔵 (井伊家伝来資料)

貝桶や三棚、挟箱など85件からなるミニチュアの調度類。弥千代の婚礼に際し、婚礼調度を模してあつらえられました。井伊家の家紋である橘紋と共に、根引きの小松、笹竹、梅枝の様子が描かれ、全体に統一感ある意匠となっています。



弥千代の雛道具のうち 歯黒道具

鉄漿沸 高1.4cm 碗 高1.1cm 盥・輪台 総高9.5cm

歯を黒く染める歯黒の道具一式です。歯黒の湯を沸かす鉄漿沸や歯黒粉を溶くための碗、口をすすぐ際などに用いる水を入れる盥、盥の下にしっかりとる円筒形の輪台や盥に渡し掛けて歯黒容器を置くための渡金などが揃っています。いずれも松竹梅の様子が細かに表され、大名家の姫君にふさわしい優美な意匠となっています。



3 弥千代の駕籠 1棹 (作品リストNO.3)

縦82.3cm 横112.2cm 高106.5cm

江戸時代後期

本館蔵 (井伊家伝来資料)

弥千代の婚礼調度として調えられた駕籠です。黒漆塗に井伊家の家紋の橘紋と、松平家の家紋の葵紋が、松竹梅の様々とともに金蒔絵で表わされています。随所に飾り金具が付けられ、内側には鮮やかな彩色で花鳥画が描かれています。



4 古今雛 一对 (作品リストNO.5)

男雛 高 44.5cm 女雛 高 43.4cm

江戸時代末期

本館蔵 (高崎正之氏寄贈資料)

男雛と女雛の一对。公家風の衣装をまと
う内裏雛の一種で、江戸時代明和年間 (17
64~1772) に江戸の人形師原舟月が創始し
た古今雛と呼ばれるものです。本作は、細
部まで造作の整った優品で、目元や口元、
髪はらしゅうげつの生際などを描き出す柔らかな筆遣い
は、制作者の確かな技量を感じさせます。

